■シリーズ■

中学校武道 ―授業の充実に向けて― 85

中学校武道授業の現状と課題、その対策　銃剣道

公益社団法人　全日本銃剣道連盟

中学校の保健体育授業において、武道必修化が平成24年度より完全実施され、本年で3年が経った。当連盟では、この中学校保健体育の授業に銃剣道が採用されることを悲願として掲げ、関係団体のご指導・ご支援・ご協力を仰ぎながら、様々な取組を行ってきた。しかし、平成26年度まで、残念ながら総合学習を除いては保健体育の授業として銃剣道の採用実現には至っていない。そのような中で迎えた平成27年度、複数種目の一つではあるが、銃剣道の採択が実現される運びとなった。

本稿執筆時は銃剣道授業実施前であるため、今回は銃剣道採択に備えた当連盟の取組及び授業内容研究の現状、また、学校現場からみた銃剣道採択の課題とその対策を述べてみたい。

1 現状

平成24年度から完全実施された中学校保健体育の武道授業において、残念ながら、平成26年度まで銃剣道の授業が行われた事例はない。埼玉県の中学校にて、総合学習として銃剣道の体験授業が行われているのみというのが現状である。

しかしながら、平成27年度から複数種目での採択だが、神奈川県内の中学校において、銃剣道授業が実施される運びとなった。

当連盟では、銃剣道採択に備え、本誌7月号にて紹介させていただいた銃剣道が採択されるための取組（鈴木健「特別寄稿　銃剣道を中学校武道授業に――全日本銃剣道連盟の取組」）のほか、平成22年から（公財）日本武道館との共催で中学校武道授業（銃剣道）指導法研究事業において、授業内容についての研究に取り組んでいる。

中学校武道授業（銃剣道）指導法研究事業の模擬授業

木銃にテープを巻き、視覚的効果を取り入れた

銃剣道は、過去、授業での実践例がなく、中学校での部活動実施もなかったことから、同研究事業初年度（平成22年）は、高等学校で部活動指導を行っている教員を研究員として参加してもらい実施。授業で何を行い、何を学ばせるかの内容を確立させることから始めた。

銃剣道は、突き技のみで行う武道であるため、技の動きだけを見ると非常に単純である。よって研究事業では、この単純な動きの技をいかに飽きさせずに、安全に楽しく学ばせるかを念頭に置き、授業内容を確立していった。

同研究事業を実施していく過程で、授業内容の一つひとつに対する指導法の研究が必要となり、より多くの研究者に参加してもらうことが急務となった。そこで各都道府県連盟を通じ、少年時代を含めて過去に銃剣道を行っており、現在中学校教員となっている者を調査。そして、銃剣道の経験のある中学校教諭、経験はないが銃剣道を知っているという中学校教諭を新たに研究員として加えた。現在は、新たな研究者とともに、千葉県勝浦市内の中学校のご協力を仰ぎ、実際の中学生に対する模擬授業を実施して、指導法の研究を行っている。

指導法の特徴の一つに、視覚的効果を存分に取り入れていることが挙げられる。例えば、応じ技の打ち払い技の学習では、木銃に様々な色のテープを巻き、「赤色」のテープの位置で相手の木銃の「赤色」のテープの位置を打ち払うようにさせる。このようにすることで、自分の木銃のどの部分で相手の木銃のどこを打ち払うかを視覚的により解りやすくする効果がある。この指導法は、実際の中学校体育教員の意見を参考に取り入れた。

また、中学校教員を研究員に入れたことで、学校現場にいる教員たちから見た中学校の状況を把握できるようになった。指導法研究事業では、実際の学校現場で銃剣道を採択しやすい環境・方法についても検討している。

さらに、今年度からの銃剣道授業実施に向け、これまで資料という形をとっていた「中学校授業銃剣道指導の手引」を本年10月に書物の形で出版する。銃剣道授業のさらなる認知・理解を求めたい。

授業で使用する銃剣道の木銃に関しては、実施校には当連盟から必要本数を贈呈することにしている。学校側の負担を軽減し、銃剣道の採択しやすい環境を整えた。

2 課題

中学校保健体育授業において、銃剣道を行うにあたっての検討事項、また採択に向けての課題は多い。他武道でも共通の検討事項であるかと思うが、銃剣道においての課題を具体的に述べてみたい。

(1) 銃剣道に関する理解と認識

本誌7月号の当連盟副会長兼専務理事・鈴木健の特別寄稿でも触れているが、各地域での銃剣道採択のための交渉において、「銃剣道そのものをまず知らない」「現

代武道というよりも戦前のイメージを持っている」「銃剣道が中学校保健体育授業の選択肢に入っていることを学校関係者が知らない」という報告が主として上がってきている。

銃剣道は、過去の歴史から見ると学校関係との関わりが薄い。地域の道場等で子供たちを育成し、今日まで普及してきた例がほとんどである。国体種目となり、高等学校では、徐々に部活動として銃剣道を取り入れている学校が増えてきた。しかし、中学校においては、部活動で行っている学校は少なく、銃剣道という武道が学校関係者にも浸透していない。

部活動での活動誘致も含めて、中学校、各地の教育機関に対し、銃剣道自体の認知度をもっと高めていかなければならない。

(2)教員の不足と養成

教員の不足は他武道においても挙がる課題であるが、銃剣道も例外ではない。他武道と比べ銃剣道経験者または銃剣道に係わる教員数は、高等学校を含めて少ない。これは、銃剣道を行っている大学が少ないことが理由として挙げられるであろう。中でも、銃剣道を行っている体育大学は極めて少ない。それが銃剣道経験のある体育教員数の少ない現状に直結している。

現在、銃剣道に携わる体育教員は、元々他武道もしくは他種目の専攻であり、教員になってから部活動などを通して銃剣道に携わるようになった例がほとんどである。将来に向け、体育大学での銃剣道の普及も必要になってくる。

(3)外部指導者の確保と育成

銃剣道において、外部指導者の活用は銃剣道経験がない教員の技術指導の負担軽減につながり、教員不足を補えることになると考えられる。しかし、外部指導者となりうる地域指導者の確保が課題となっている。

学校の授業は、平日の日中に行われるため、武道授業を行う一定期間、外部指導者は学校に通うことが可能でなければならない。その時間的条件を満たした地域指導者を、不測の事態に備え、各地域で複数確保しなければならない。

学校の授業において、外部指導者は、銃剣道授業を行う教員を技術面で補佐するものであるが、外部指導者となりうる地域の指導者の中には、平素身についている選手を養成するための指導と、学校の授業を混同してとらえている者がいる。

用具（防具）を装着しない授業の中で指導する技は、安全面を優先して考慮している。一方、当連盟が教則で示している銃剣道の技は、間合いや技の出し方、受け方に授業用の指導とは異なる部分がある。例えば、当連盟が教則で示す形は、打方（受ける方）は動かずに受け、仕方（突く方）は寸止めで突くように示している。学校授業の受講者は、ほとんどが初心者であり、手の内も出来上がっていない生徒たちである。その生徒たちに、教則で示す形の指導を行えば、怪我をする可能性は高い。

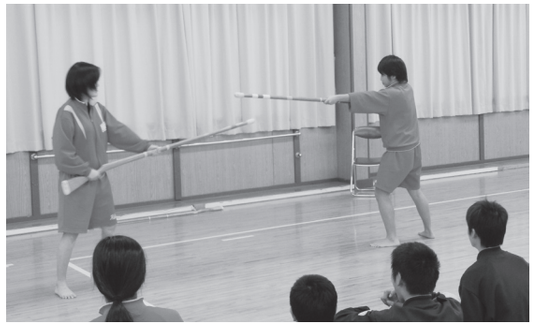
そこで、授業での指導では、礼をする時点から相手との間合いを開き、相手の突きに対し受ける側は後方に下がりながら受けるなど、受ける側の身体に木銃が触れないように配慮している。

このような安全に配慮した授業用の指導内容を地域指導者にも研修会等で理解してもらう必要がある。

(4)授業内容での課題

銃剣道の授業での技術的な学習内容は、大まかに1学年時は「攻め技」、2学年時は「応じ技」を学ぶこととしている。これは、新学習指導要領解説保健体育編に示される第1学年及び第2学年の「技能」の内容「相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて突いたり受けたりするなどの攻防を展開すること」を基にしている。銃剣道では授業の実践例がないため、指導法研究事業での模擬授業において、参加した中学生に「わかりやすかったところ」「難しかったところ」を感想として具体的に記してもらい参考にしている。

過去3回行った模擬授業の中で2学年時に行う「応じ技」の左の



相手の突きが当たらないように、間合いを開けて行わせる

応じ技の指導法研究

払い突きが特に難しいとの感想が多かった。応じ技は相手が突いてくる木銃を打ち払うという技であるため、突いてくる相手との呼吸を合わせ、打ち払われる側が払いやすいように突き出してあげなければならないなど、相手のことを思いやる気持ちがお互いにないと成功しない技である。短時間の模擬授業で、初めて銃剣道を体験する中学生が呼吸をあわせて行うことは難しいであろう。しかし、この「相手を思いやる」という部分が武道を学ぶ上で重要なことであり、銃剣道を通して学んでもらいたいところでもある。

今年度より始まる実際の授業での実践例も踏まえて、今後この部分の指導法研究を重ねたい。

3 対策

前項にて、銃剣道授業を行う上での課題を述べたが、それぞれの課題について今後、以下のとおりの対策を図っていきたい。

(1)銃剣道に関する理解と認識

現在も各地で行っているが、まずは、学校や地域の行事等で「銃剣道体験教室」や「銃剣道の演武」などの機会を設けてもらい、学校関係者に銃剣道を見てもらうことが第一である。その上で、中学校保健体育における武道授業の種目として、銃剣道も履修させることができる武道種目であること、銃剣道の目的は他の武道と同様に人間形成であること、銃剣道は安全に行える武道であること、動きが単純で習得しやすい武道であること等を説明し、理解してもらう必要がある。銃剣道の認知度が低いことを謙虚に受け止め、これらの活動を地道に諦めずに段階的・継続的に行っていきたい。

また、平成26年度から（公財）日本武道館との共催で「全国銃剣道指導者研修会」を実施している。同研修会に参加した中学校教員より「中学校は外部の団体と協力して授業や体験学習を行うことに抵抗はなく、そのシステムが成立している。銃剣道連盟会員の多くを占める自衛隊員を学校へ派遣してもらい、総合学習の時間で『地域学習』として、銃剣道を体験させるというアプローチは可能性があるかもしれない」との助言をもらった。この意見も参考にし、「地域学習」での銃剣道授業から保健体育授業の採択への可能性も検討していきたい。

(2)教員の不足と養成

銃剣道未経験の中学校体育教員に対し、関係機関を通して「全国銃剣道指導者研修会」への参加を呼びかけるとともに、銃剣道経験がある他教科の教員には、自身の学校の体育科教員に対し、研修会への参加呼び掛けをしてもらう。

そして一人でも多くの教員に銃剣道を体験、授業の内容を理解してもらい、銃剣道の特性、魅力を体感してほしいと考える。また、大学生に対する普及、特に体育大学への銃剣道参入にも力を入れていかなければならない。将来教員を目指す学生たちが銃剣道を経験したことのある教員となるよう、

教員の養成と併せて行っていきたい。また、同研修会に体育大学学生の参加も促し、将来も見据えた教員養成を行いたい。

(3)外部指導者の確保と育成

「全国銃剣道指導者研修会」において、教員以外の参加者として、各都道府県から外部指導者となりうる地域指導者にも加わってもらう。そして、銃剣道授業での学習内容及び学習目標と、銃剣道教則で示している指導法との相違点などを地域指導者に理解させ、外部指導者の役割を認識するよう図りたい。当連盟が主催する全国青少年指導者講習会（日本武道館共催）とブロック単位で行う各研修会でも、それらを学ぶ時間を設け、授業での指導法を普及していきたい。

また、外部指導者バンクを作り学校側の要請などに応じて、その地域の外部指導者を紹介できるシステムを構築したいと考えている。まずは、授業採択に向けた総合学習や体験教室などで指導を行う場合などに役立てていきたい。

4 今後に対する期待

今年度から実際に中学校で銃剣道授業が行われ、今までなかった実践例が生まれることに大きな期待を寄せている。これにより、指導法研究事業の模擬授業では気付かなかった生徒数による指導隊形、授業の理解度、時間など新たな課題も生まれるであろう。しかしそれは、今後の研究においても必要なものであり、参考にしたい。

平成26年度に行った指導法研究事業では、TT方式であるが、初めて銃剣道経験のない中学校体育教員に模擬授業を行ってもらった。模擬授業後、その体育教員から「銃剣道は、動き自体は単純なのでやりやすかった。授業で採用する時には、ほとんどの生徒が未経験者として行うことになると思うので、経験値に差がなく、全員がスタートラインに立った状態から始められる。逆に取り組みやすい教材だと思う」との感想をもらった。未経験の教員でも、研修会や外部指導者の活用によって、銃剣道の授業をできることが今回の授業実施によって証明されれば、更に採用校の増加が期待できる。

また、各学校では、武道種目を変更することは、手続きが繁雑なため、積極的ではないという声を聞く。従って、銃剣道のような今まで採用されていない武道種目は今後も採用されないのではないかという思いになる。

しかし、平成27年の武道振興大会の決議文では、複数種目実施校の拡大を明記し、全会一致で採択され、文部科学大臣に手渡された。今年度から銃剣道を実施する中学校も剣道と銃剣道の複数種目実施校である。この複数種目実施の可能性に期待をかけて、今後一つでも多くの中学校で銃剣道が採択されるよう、各都道府県連盟と協力して様々な課題に取り組み、一人でも多くの中学生が銃剣道を経験し、授業を通じて武道の魅力に触れることができるよう教員・地域指導者の育成に邁進（まいしん）していきたい。

日本武道館に掲揚されている日本最大級の日の丸
全日本少年少女武道錬成大会 刺繍旗 の実績

社旗 校旗など
各国国旗
のぼり・応援幕・バナー
タスキ・腕章・半纏など
トロフィー・楯・徽章
＊デザイン作成もいたします＊

早稲田大学応援部 慶應義塾大学應援指導部 立教大学応援団
ご用達

株式会社 三上旗店（創業明治五年）
〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町1-12-6 三上ビル
TEL:03-3663-8841 FAX:03-3664-8108 Mail:info@mikami-flag.co.jp URL:www.milkami-flag.co.jp

好評発売中！

漫画家・別府大学教授
田代しんたろう 著
マンガ・武道のすすめ
B5判・236頁・1,000円+税

マンガ・武道のすすめ
田代しんたろう

日本武道館

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化！
柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。
大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。

《目次》
序章 武道のすすめ
松永光(日本武道館)／高村正彦(武道議員連盟)／有松育子(文部科学省)
第1章 いざ！ 武道の世界へ
第2章 柔道のすすめ
大澤慶己／長谷川博之／腹巻宏一／吉村和郎／山内直人
第3章 剣道のすすめ
森島健男／角正武／千田重光／井上茂明／小林知洋
第4章 弓道のすすめ
森永良雄／吉本清信／宇佐美義光／柴田猛／大和田正孝
第5章 相撲のすすめ
塔尾武夫／住吉和則／下村勝彦／安井和男
第6章 空手道のすすめ
金城裕／長谷川伸一／安里廣之／山本英雄／大石武士
第7章 合気道のすすめ
多田宏／磯山博／菅沼守人／珠玖仁
第8章 少林寺拳法のすすめ
合田清一／阿達美恵子／八巻哲／松浦哲也
第9章 なぎなたのすすめ
澤田花江／梶山武子／一川治子／左村美穂子／大津博美
第10章 銃剣道のすすめ
桑原正治／兼坂弘道／遠藤守／石川慎也／北村弘之
第11章 古武道のすすめ
竹内藤十郎(柔術)／笹森建美(剣術)／加藤伊三男(槍術)／小笠原清忠(弓馬術)
日本武道館の歴史

編集・発行 日本武道館
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp
お問い合わせ・ご注文は日本武道館出版広報課までどうぞ！
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158